

No.208
2024年7月15日
滋賀県竜王町議会

りゅうおう

議会だより

地域で支える放課後クラブ

(関連記事は裏表紙をご覧ください)

- 定例会報告 P2～ 物価高騰対策補正予算
- 委員会報告 P4～ チョイソコりゅうおうのサービス拡充
- 一般質問 P8～ 出水期への備え、対策は

5月
定例会

いつまで続く 物価高騰？



調整給付金

定額減税可能額が、令和5年分所得税額または令和6年分個人住民税所得割額を上回る者が対象（控除不足額が調整給付）

9197万円

補正予算の 主な事業



電力・ガス・食料品等 価格高騰緊急支援給付金

住民税非課税、住民税均等割のみ課税となる世帯（180世帯）に10万円を給付、低所得者の子育て世帯（30人）に1人5万円を給付

1950万円

令和6年第2回定例会は、5月13日から6月4日までの23日間の会期で開催されました。

町長から提案のあった条例3議案、令和6年度補正予算3議案、人事案件1議案を原案のとおり可決しました。

なお、令和6年度一般会計および特別会計の補正予算3議案は、予算決算常任委員会で集中審議を行い、すべて原案のとおり可決しました。

一般質問は、5月30日に11議員が教育、福祉、防災・減災対策、地域コミュニティ、道路・橋梁の点検整備など町政全般にわたり議論を展開しました。【P8、一般質問をご覧ください】

令和6年度一般会計予算 92億7769万円に (5月補正予算で1億7769万円の増額)



青年就農支援助成金
次世代を担う農業者となることをめざす49歳以下の者に対し、経営開始時の早期の経営確立の支援や、経営発展のための機械・施設等の導入費用として支援する。
675万円（2名分）



ワクチン接種委託料
国の助成金を活用して予防接種事業を実施する。
3038万円



**ふるさと納税
初期手数料**
ふるさと納税のさらなる寄附額の増加を目標に、新たなポータルサイトを活用するに当たっての必要な初期手数料
275万円



**地域おこし協力隊事業
(竜王町へは4人目・9月～)**
町の農業および農産物の認知度を向上させるための活動やバイオマス産業都市構想の実現に向けた活動などをする。
278万円

質疑



問 地域おこし協力隊員報償費と同事業委託料が計上されているが、隊員に求める役割が多く、スキルも必要であるが、現段階で見込があるのか。

答 町の農業関係の活動をされる方を予定しているが、農業関係者のサポート体制による技術的な助言等により対応が可能である。

問 定額減税しきれないと見込まれる方への調整給付金や電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金は、申請をして給付されるものなのか。

答 役場で金額を計算して対象者に案内を送り、振込口座番号を書いていただき、町への返送後の振り込みとなる。

ふるさと納税ポータルサイトとは、全国の自治体から目的に沿った返礼品を絞り込み、ふるさと納税を簡単に行うことができるインターネットのサービスです。



近江うし丸

チョイソコリゅうおうのサービス拡充

5月22日、総務産業建設常任委員会で、「チョイソコリゅうおうの状況」について調査を行い、概要の説明を受けました。



利用状況とサービス内容は

電話とWEBによる事前予約により、町内移動ができる乗合いサービスで、行きたい時間・場所と乗車する停留所を予約すると、他の利用者の予約状況とあわせて専用システムが経路を導き出し、複数の方との乗合いで目的地まで運行するもの。

●直近の利用状況

令和2年10月スタート時は1か月の利用件数が290件で、1日あたり13.2件だったが、令和6年4月末では1日あたり17.9件と伸びてきている。



●サービスの拡充内容

- 令和4年4月 運行時間延長（8時30分～16時）
WEB予約が可能
- 令和5年4月 篠原駅南口に停留所を設置
- 令和6年2月 予約が乗車30分前まで可能
WEB会員登録が可能
- 4月 運行時間延長（8時30分～18時）
ICOCAでの支払いが可能
こども等の乗降見守りメール配信開始

主な質疑応答

- 問** 停留所を増設してほしいとの要望があるが、どのように考えているか。
- 答** 増設は可能であるため、要望を聴かせてもらいたい。

日野川広域河川改修事業の現場視察

5月22日、日野川河川工事現場の3か所を視察し、滋賀県東近江土木事務所の河川砂防課より説明を受けました。

視察箇所	整備内容
① 仁保橋下流	河道掘削、低水護岸
② J R 橋梁	橋梁架け替え事業（令和14年3月完了予定）
③ 弓削地先	堤防強化工事（県単独事業） すべり破壊、浸透対策（令和6年6月完了）



視察状況



①仁保橋下流



② J R 橋梁（桐原橋）



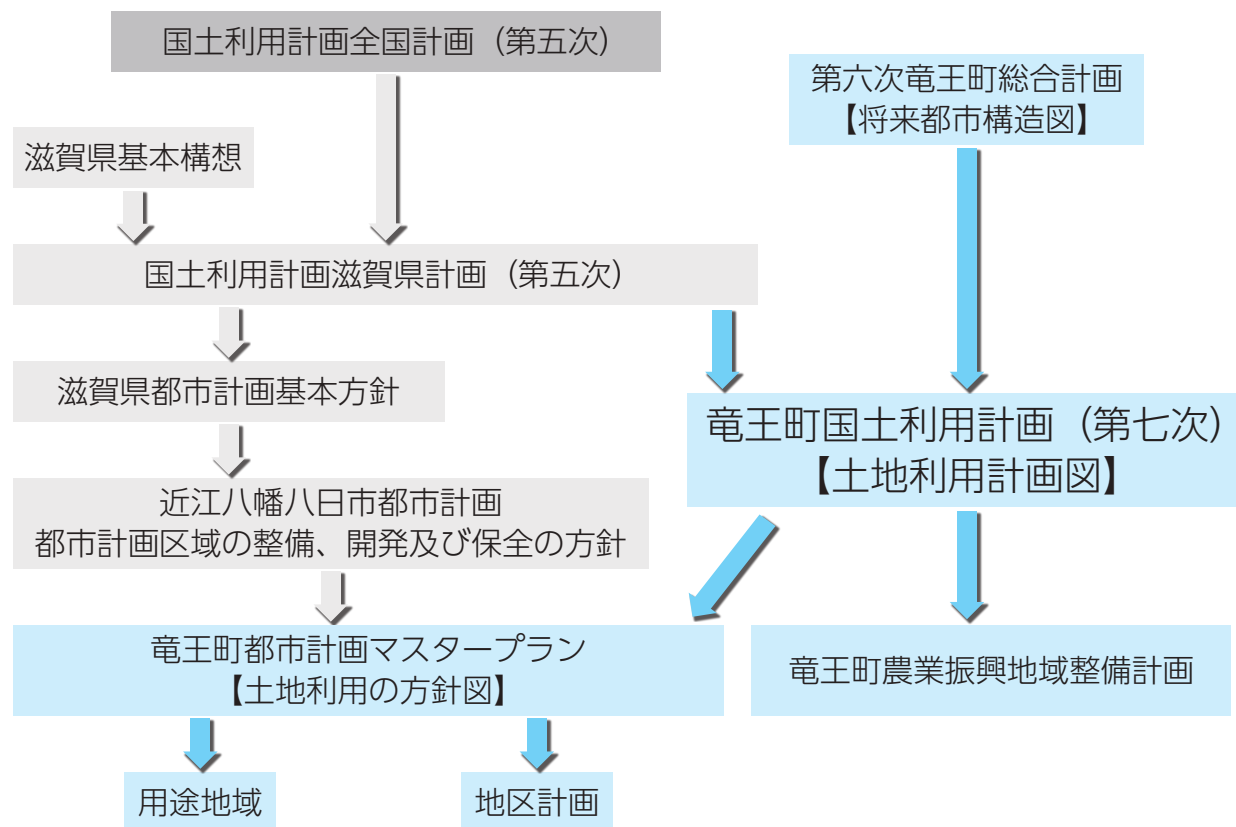
③弓削地先

土地利用計画の状況は

5月24日、地域活性化特別委員会で「竜王町土地利用計画」について調査を行い、概要の説明を受けました。

調査 竜王町土地利用計画の策定状況

土地利用計画体系図



第六次竜王町総合計画と県の国土利用計画を反映させたものが「竜王町国土利用計画」の第七次である。

次に、県の都市計画基本方針と町の国土利用計画（第七次）を反映させる形で竜王町の都市計画マスタープラン、農業振興地域整備計画などの分野ごとの計画を策定していく。

その中の特に、都市計画マスタープランの中では、区域区分である**用途地域**と言われる住居系や商業系、工業系といったものを決める。それ以外にもマスタープランの中では、**地区計画**も立てる。

町土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標

利用区分	面積 (ha)		構成比 (%)	
	令和2年 (2020年) (基準値)	令和12年 (2030年) (目標)	令和2年 (2020年) (基準値)	令和12年 (2030年) (目標)
農地	1,283	1,239	28.8	27.8
宅地	608	716	13.7	16.1
住宅地	206	219	4.6	4.9
工業用地	263	308	5.9	6.9
その他の宅地	139	189	3.1	4.2

出典 第七次竜王町国土利用計画

竜王町における土地利用計画案

住宅地候補（案）

- ①中心核居住ゾーン（小学校等跡地）
- ②町有地（須恵）
- ③町有地（鵜川）
- ④IBMグラウンド など

子ども療育事業所「たっぴー」とは

5月22日、教育民生常任委員会で「竜王町ふれあい相談発達支援センターの現状と課題」について調査を行い、概要の説明を受けました。また、竜王町公民館3階にある竜王町ふれあい相談発達支援センターおよび子ども療育事業所「たっぴー」の現場視察を行いました。



竜王町ふれあい相談発達支援センターの現状と課題

1. 設置目的

さまざまな課題のある児童および発達に関わって支援の必要な児童ならびに障がい者に対して、その発達段階、年齢、生活状況および社会環境に応じて、保健、福祉、医療、教育、就労等における必要課題を一貫して継続的かつ総合的に提供することを目的として設置されている。

2. 沿革

平成20年4月 健康推進課 発達支援室設置
 平成23年4月 福祉課内
 ふれあい相談発達支援センター
 平成26年4月 発達支援課
 ふれあい相談発達支援センター
 令和4年4月 自立支援課
 ふれあい相談発達支援センター

3. 自立支援課の組織体制

令和6年度15名体制

・発達支援係 (相談事業)	当事者支援…来所・訪問相談支援 支援者支援…巡回訪問・業務支援
・療育係	児童発達支援事業所 療育事業（たっぴー）・保育所等訪問事業



「たっぴー」の視察状況

4. 課題

- 発達支援や療育事業にかかる専門職の配置
- 施設整備の充実



運動療法室

●子ども療育事業所「たっぴー」

平成25年度までは療育事業を近江八幡市子ども療育センター「ひかりの子」に委託していたが身近な地域で支援を提供することを目指し、平成26年4月より、竜王町ふれあい相談発達支援センターに子ども療育事業所「たっぴー」が設置された。

また、療育方針として身の回りのことやあそびを通して、個々の子ども達なりに「自分でできた!」という手ごたえを感じ、自信を得ながら成長していくことを目指している。



発達障がいの早期発見・早期支援に向けて

発達障がいのある方が社会的に自立していくためには、社会の発達障がいに対する認識や理解があることが大切であり、周囲の方々の支援等が必要です。

●発達障がいとは

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの。



●発達障がいに関わる特性

特性にあてはまることは誰にもあることで、常態化していなかったり、工夫等で改善・克服をして社会生活を営んでおられる方もいる。しかし、特に発達障がいは、一見しただけでは障がいの特性が分かりにくく、周囲から理解等をしてもらえないため、学校や社会でうまく適応できない状況となり、辛く苦しい思いをしている人も少なくない。

●発達障がいの早期発見・早期支援

できるだけ早期に発見され支援していくことが大切である。早期に発見されなかった場合、学齢期以降に「2次障がい」が生じることがある。早期から支援を受けることで障がい特性を改善・克服して社会自立につながる方も多い。

こんなお悩みありませんか？

集団の活動や
勉強についていけず
悩んでいる

友達とうまく
遊べなくてすぐに
トラブルになる

学校に行けない
学校に行くことを
しぶっている

竜王町公民館3階

ふれあい相談発達支援センターまで
ご相談ください

「議会や議員の活動が見えない」への対応は

5月24日、議会改革特別委員会を開催し、前回に引き続いて議員定数を議題として話し合いを行いました。

主な意見等

- 議員活動の見える化は、議員個人の責任で対応すべきである。
- 議会活動の見える化は、具体的な方策の検討を行う。
- 議員定数を削減した多賀町議会への訪問を決定し、課題等を確認する。

- 本委員会は議会改革のために設置されたもので、埋もれている課題や問題点等を議論する場として大いに利用する。
- 次回はこども議会の進捗についても報告する。

町政 ここを問う!

5月定例会では11議員が25問の一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問を質し報告や説明を求めることです。

ページ	質 問 者	質 問 事 項
9	山田 義明	・ 滋賀県希望が丘文化公園に空港の併設を ・ 町の発展に生成AIの活用を
10	鎌田 勝治	・ 避難行動要支援者名簿の活用は ・ 地域コミュニティの活性化への取組は
11	中村 匡希	・ 消防団の定員見直しとポンプ操法の廃止は ・ ボルダリング施設、この一年の成果は
12	内山 英作	・ 流域治水で安全安心の町を ・ 地域での防災減災対策は ※地域の居場所づくりで孤立の解消を ※地域福祉活動の充実を ※ボランティア活動の推進は
13	磯部 俊男	・ 竜王町の道路の整備状況と今後は
	澤田 満夫	・ 急激な人口減少の認識と住宅地供給は
14	大橋 裕子	・ 病児・病後児保育の取組は ・ 鏡「仁王尊」の町文化財指定を ※教育施設の今後のあり方は
15	若井 政彦	・ 出水期への備え、対策は ・ 国民健康保険税均等割りの見直しを
16	森島 芳男	・ 日野川に架かる野寺橋の点検を ・ 学校給食センターの今後は
17	橘 せつ子	・ 竜王町学校給食センターの早期整備を ・ 中心核「交流・文教ゾーン」整備の進め方は ※竜王こども園の給食提供は ※放課後等デイサービス事業の対策は
18	三宅 政仁	・ 竜王町消防団退団者の負担軽減を

各議員のQRコードを
スマートフォンで読み
取ると音声配信が聴け
るよ



近江うし丸

※は紙面の都合上、掲載しておりません。

QRコードから、全ての質問がお聴きいただけます。

次回の一般質問は

令和6年9月19日(木)予定

※日程は変更になる場合があります。

※議員の質問順と質問事項は町ホームページでご確認ください。

問 議会事務局 電話 0748-58-3713



やまoka よしあき
山田 義明 議員



問 滋賀県希望が丘文化公園に 空港の併設を

答 町内集客施設との連携や機能強化案
を要望する



田舎の飛行場（生成AIで作成）

問 滋賀県希望が丘文化公園は、観光都市京都に近く、半導体関連企業の会社も多く、インターチェンジや基幹鉄道も近くを通っており、空港として適地であり、このことが起爆剤となり新たな次代が開けると信じるが、町の考えは。

答 県が検討中の希望が丘文化公園のリニューアル案と提案の「空港」は方向性が異なる。

本町は、希望が丘文化公園の活性化の検討の機会を好機と捉え、町内に立地する集客施設との連携や公園そのものに期待する機能強化案を要望する。

また、本町のみならず周辺エリア一带の活性化に繋げていきたいと考えている。

問 町の発展に生成AIの活用を

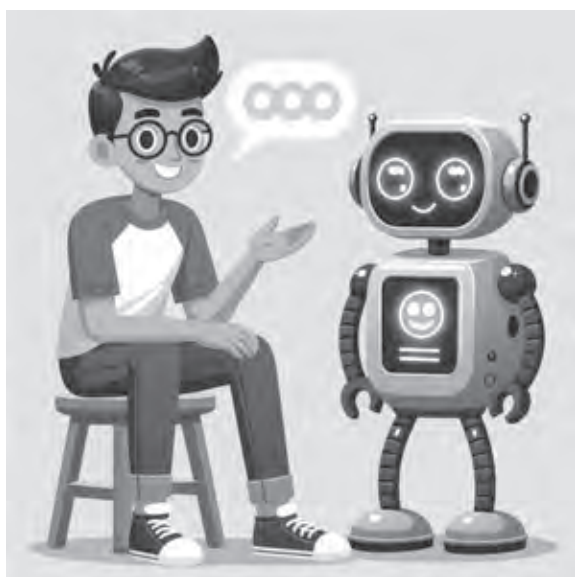
答 生成AIや新技術の活用を検討する

問 情報技術の中でも生成AIの進化は素晴らしいが、世代間の格差も生じており、この歪みを最小限にし、町の発展に繋がる何らかの手立てが必要である。当町で、これからの時代を生き抜くツールとして生成AIを身近なことから普及させ、慣れ親しむことにより活用促進をはかり、町の総合力UPを目指す取組は。

答 生成AIは、創造的な業務やコンテンツの自動生成が可能となり、様々な分野で効率化や革新が期待されている。

一方、その活用の際は、個人情報保護や透明性確保などに十分な配慮を行う必要があり、これらの課題やリスクが伴うため、適切な対策を講じるとともに、住民の利益と

安全を最優先に考えた運用が必要となる。
技術の進化や社会の変化に適応しながら、町民サービスの向上や行政事務の効率化を図るために、生成AIを含む新たな技術の活用に向けた検討を進める。



人とロボットが対話している絵（生成AIで作成）

問 避難行動要支援者名簿の活用は

答 確実に提供できる体制を整備する



かまだ かつじ 鎌田 勝治 議員

① 避難行動要支援者名簿は、自ら避難することが困難な障がいがある人や独居の高齢者等、要配慮者の安否確認、救出、避難誘導を迅速に行うことが目的。令和6年4月1日時点で1629名が登録されている。このうち個人情報提供に同意がある方は、128名である。

② 同意がある方の名簿は、自治会長と民生委員児童委員に配布し、事前に避難行動

問 避難行動要支援者名簿に関して、次の3点を伺う。

① 避難行動要支援者名簿の本来の目的と現状の整備状況は。

② 現状での活用実態は。（各自治会での活用実態も含めて）

③ 要配慮者に対する安否確認や避難誘導など、災害発生初期段階での今後の方針は。

要支援者を把握し、避難支援にかかる体制づくり等に活用していたことを想定している。

③ 災害時の安否確認や救助活動を行うために、避難行動要支援者名簿を消防や警察の関係機関に対して早期に提供することとあわせて、自治会など各地域にも早期にまた確実に提供できる体制を整備する。



能登半島地震後の応急給水活動の様子

① 現状維持とせざるを得ない数項目を除いて自治会の負担軽減を図る方向で進めている。

② 町内の先進事例を紹介し、各自治会内でそれぞれの課題について話し合いが行われるよう働きかけている。

また、「竜王町未来へつなぐまちづくり交付金」において特別加

問 表題の件について、次の4点を伺う。

① 令和5年度に重点的に取り組む事項36項目の進捗は。

② 自治会内での話し合いを主導する行政としての仕掛けをどのように進めるのか。

③ 自治会間の連携について、今後どのように進める予定か。

算事業に「持続可能な自治会運営に向けた事業の実施」を追加しており、自治会内での話し合いの動機付けにしたい。

③ 「防災対策」「高齢者の見守り・支え合いの支援」「環境保全」「こども支援」を中心として自治会間の連携のあり方を模索し、今年度から連携の仲介役、実施役となれるような中間支援組織の検討を深めていきたい。

問 地域コミュニティの活性化への取組は

答 中間支援組織の検討を深める



自治会連絡協議会での研修の様子

※中間支援組織とは、連携の仲介役または合同行事等の実施役となれるような組織のこと。



なかむら まさき
中村 匡希 議員



問 消防団の定員見直しとポンプ操法の廃止は

答 定員は見直しを含め議論し、ポンプ操法は継続する

① 消防団幹部、自治会連絡協議会役員以外に、消防団OBを加えて懇話会等を設置し、定員見直しを含めた今後のあり方について方針を定めていきたい。

② ポンプ操法大会は、災害現場での消防団



日頃の練習成果を競い合うポンプ操法大会

問 消防団は地域防災に必要なが過疎化の要因でもある。そこで次の点を伺う。

① 定員見直しの検討状況は。

② ポンプ操法大会は、実際の火事に役立つとは言い難い側面もある。団員全員が小型ポンプ等の操作を理解したり、昨今の自然災害に備えて実践的な訓練をすべきであり、大会は廃止すべきではないか。

員の安全確保と迅速な対応をする能力が養われ、団員の一体感の醸成が図られ、消防団組織の強化につながっている。全国的には中止した自治体もあるが、本町としては大会の必要性を認識しており、廃止は考えていない。しかしながら団員の負担軽減を意識し、開催方法などについては消防団において議論していきたい。

① 令和5年度は延べ9208人で、約4分の3が町外の方の利用となっている。

② 約650万円であり、内訳は施設利用収入が約400万円、スクール受講代など事業収入が約250万円となっている。

③ 広域情報誌、町HP、ラジオ、テレビ等の広

問 総合運動公園内のボルダリング施設について、次の点を伺う。

① 年間の利用者目標は5600人としていたが、実際の人数は。

② 収益目標は507万円としていたが、実際の収益は。

③ 利用促進のPRは。

④ 今後の運営上の課題は。

問 **ボルダリング施設、この一年の成果は**

答 想定以上の成果、利用者拡大に努める

報媒体でPRをした。さらに小学生を対象としたボルダー体験教室を開催したり、町のイベントの際に体験会コーナーを設けた。

④ 町民の利用が約4分の1に留まっているため、サブウォール等を活用し気軽な体験機会の充実を図り利用者拡大に努めたい。



国スポで行われるボルダー（左）とリード（右）

問 流域治水で安全安心の町を

答 積極的に流域治水の取組を進める



うちやま えいさく
内山 英作 議員



日野川河川愛護事業

※流域治水とは、河川の上流から下流まで地域の特徴に応じた施策を切れ目なく実施し、災害に強い街づくりをめざす。具体的には、「ながす」、「とどめる」、「ためる」、「そなえる」の対策。



堤防強化工事（弓削地先）

問 滋賀県流域治水の推進に関する条例に合せて、「竜王町流域治水推進協議会」の設置および条例制定を通して、安全安心のまちづくりに取り組んでいく必要があるのではないか。

答 町単独での協議会の設置や条例制定ではなく、国や県、関係市町などあらゆる関係者と緊密に連携し、積極的に流域治水の取組を進めることで、町民の生命と財産を守る。



避難訓練（弓削）

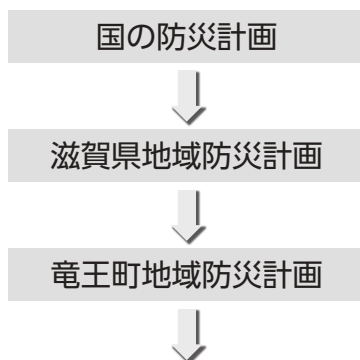
問 地域での防災減災対策は

答 地区防災計画の必要性を研究する

問 竜王町地域防災計画と同様に、各自治会単位の「地区防災計画」策定の必要性について、町の考えは。

答 地区防災計画は、住民自ら地域の防災活動に

関する内容を定め、防災訓練の実施や、食料・水の備蓄、高齢者等の避難支援など、自発的な「共助」による防災活動を記したものである。これにより、「自分たちのまちは自分たちで守る」という自主的な意識が生まれ、地域防災力の向上につながることから、国・県において計画策定を推進している。町として、地区防災計画の必要性について研究し、地域へ働きかける。



各自治会の地区防災計画



いそべ としお 磯部 俊男 議員



問 竜王町の道路の整備状況と今後は

答 安全安心な道路整備に向け取り組む



東出交差点の渋滞状況

問
①県道13号線、14号線、165号線、国道477号の整備状況と今後は。
②県道13号線の東出交差点改良工事の進捗と今後は。

答
①県道13号彦根八日市甲西線は、交差点内の安全対策等を進めてもらっている。
県道14号近江八幡竜王線は、滋賀県道路整備アクションプログラム2023に着手時期検討路線として位置づけ、バイパス整備の検討が進められている。

県道165号春日竜王線は、須恵から西川地先等で路肩拡幅を進めてもらっている。
国道477号は薬師地先2か所を滋賀県道路整備アクションプログラムに位置づけ、交差点改良を進めてもらっている。
今後は、本町全域の安全安心な道路整備に向け、県と一緒に取り組む。
②彦根八日市甲西線東出交差点改良事業は、令和4年度に係関係地権者への説明および補償調査等を行い、令和5年度から引き続き用地交渉を進めている。



さわだ みちお 澤田 満夫 議員



問 急激な人口減少の認識と住宅地供給は

答 官民が連携し住宅地整備を進める



住宅地整備の検討地（道の駅竜王かがみの里付近）

問 現在の人口減少速度、住宅需要ニーズおよび全町の住宅地供給について、どのように考えているのか。

答 本町の人口減少は、ここ数年大変厳しい状況にある。この要因は出産の可能性の高い年齢層の女性の減少にある。これらの対策として若年層の定住を進めるため、民間活力による集合住宅建設の支援や家賃補助等を行ってきた。
現在は、集合住宅の人氣は高いが戸建住宅の一定規模の新規開発はない。理由に都市計画法や農振法等の土地利用規制がある。これらを解決するため進めているのが中心核整備の小学校跡地等を活用した居住ゾーンである。他に町有地の活用や「道の駅竜王かがみの里」の隣接地での住宅整備を検討している。また民間の所有地でも住宅整備も計画されている。今後も官民が連携し住宅地整備を進めつつ、子育て支援などのソフト事業も推進し、少子化傾向を反転させたい。

定規模の新規開発はない。理由に都市計画法や農振法等の土地利用規制がある。これらを解決するため進めているのが中心核整備の小学校跡地等を活用した居住ゾーンである。他に町有地の活用や「道の駅竜王かがみの里」の隣接地での住宅整備を検討している。また民間の所有地でも住宅整備も計画されている。今後も官民が連携し住宅地整備を進めつつ、子育て支援などのソフト事業も推進し、少子化傾向を反転させたい。

問 病児・病後児保育の取組は

答 本町の実情に即した保育施設確保に取り組む



おおし ゆうこ 議員
大橋 裕子

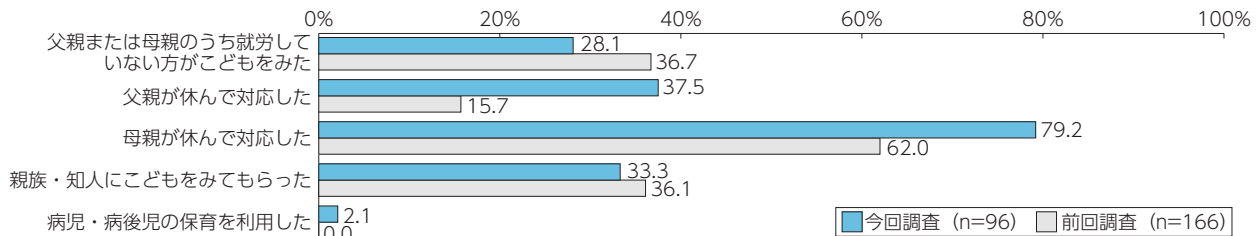
問 子どもが集団保育中に急な病気となり、保護者が家庭において看護できない時、病院や保育所等において病児・病後児を預かる病児・病後児保育制度がある。このシステムがあれば保護者は勤務を続けながらも子育てができる。

答 若者定住を掲げる竜王町にとってこのシステムの取組は、

問 昨年度、子育てに関するニーズ調査を実施し、病児・病後児保育を約5割の方が「利用したい」と回答した。そのため子どもの急な発熱や体調不良の時に安心して預けられる環境を整える必要があると考える。

答 一般的にこれらの施設は病院や保育所の敷地内に設置され、いくつか検討課題はあるが、本町の実情に即した保育施設が確保できるよう前向きに取り組んでいく。

お子さんが病気やケガで普段利用しているこども園・保育園等が利用できなかったとき、この1年間での対応はどれですか。(複数回答可)



出典：竜王町子育て支援に関するニーズ調査（令和5年12月）

問 平成28年9月、金沢市の昨形像が石材の加工痕や造形様式に室町時代以前の特徴が伺えることから金沢市の指定文化財に指定された。

答 当町でも平成29年から

問 竜王町には「鏡の仁王さん」と呼ばれ、県下で唯一石で作られた阿形の金剛力士像がある。

答 通常、阿形像（あぎょうぞう）・昨形像（うんぎょうぞう）の一对からなり、寺院の山門の左右に配置される。最近、金沢市で対ではないかと言われる昨形像が見つかり、関係者が鏡に調べに來られた。金沢市の昨形像は市の有形文化財に指定されている。竜王町鏡の阿形像も町の文化財指定を受けることができないか。



金沢市の昨形像



鏡の阿形像

鏡の阿形像の詳細調査を実施した。特に制作年代の特定を前提とし町文化財保護審議会に付議したが、年代を特定する証拠がなく、情報収集に努めていく。

問 文化財指定に向け情報収集に努める

答 文化財指定に向け情報収集に努める



わか い まさひこ
若井 政彦 議員



問 出水期への備え、対策は

答 堤防強化の優先的な推進を要望する



須恵地先の祖父川護岸整備

問 出水期を前に、祖父川をはじめとする天井河川の沿川住民は、降雨の度に計り知れない不安と恐怖に脅かされている。こうした不安や恐怖を払拭する備え・対策は。

答 祖父川や日野川は、県において「中長期整備実施河川の検討」の中で、河川の形態から破堤による人命への被害の影響が大きい河川である。このことから現状把握や対策の検討・実施、予算確保

等を進める『Ｔランク河川』として位置付け、「堤防の強化」を計画的かつ優先的に進めていただいている。
また毎年、県による巡視点検や町との定期的な合同点検を行い、流下能力に支障がある箇所のできや河床整理を実施している。
日野川や祖父川の改修には相当な時間を要するものと想定され、引き続き堆積土砂の撤去や河床整理、雑木の伐採等要望していく。

問 国民健康保険税均等割りの見直しを

答 県、市町が連携して国に要望していく

問 国民健康保険税は、所得基準によるものなど一定の軽減、減額措置はあるが、税の負担軽減や子ども支援の観点から、子どもの人数を算入しない均等割り（人数割り）の見直しは。
また、令和12年度より県内市町の国民健康保険税率が統一される予定だが、子どもの均等割りを算入しないよう県に提言できないか。

答 子どもの均等割りについては、令和4年度から国民健康保険被保険者世帯の未就学児にかかる均等割保険税を公費で5割軽減する措置が導入されている。国は国の基準を超えて独自に保険税軽減を定めることを認めて

いない。したがって、町独自で子どもの均等割りを算入から除くことは難しい。県と市町で構成する国民健康保険市町連携

均等割

世帯の人数に応じて一定額が課される

平等割

すべての世帯が同じ金額を支払う

所得割

所得が高いほど支払う金額が増える



国民健康保険税のしくみ

問 日野川に架かる野寺橋の点検を

答 今年度、野寺橋を含む全橋梁の点検をする



もりしま よしお
森島 芳男 議員



耐用年数まで3年の野寺橋の点検を

問 野寺橋は昭和52年8月に竣工し、河川の橋梁耐用年数50年まであと3年と近づいている。予想外の事態が起った場合、安心・安全な橋であるために、点検をして不具合がないかを調べる必要があると思うが、今後の考えは。

答 本町の町道橋は126橋ある。橋梁については、平成26年に点検が法定化され、5年に1回を基本として点検すること、健全性の診断結果に

ついては、4段階に区分して評価することと規定され、直近では令和元年度に行っている。この結果に基づき、修繕計画を更新し修繕を進めている。今年度は、前回の点検から5年が経過することから、すべての町道橋の点検を実施する予定である。

今後については、点検の結果を精査し、橋梁機能の回復と維持強化を図るため、必要な修繕を実施し、安全に通行できるように努める。

問 学校給食センターの

今後は

答 新たな給食センターを整備する

問 学校給食は食育の一環として昭和42年からセンター方式で進められてきた。竜王町でとれた米・近江牛や野菜等の食材を利用し、あったかごはんの提供やアレルギー対応もされ、子ども達に大変好評である。

答 農業振興や働く職場の維持を含め、このままセンター方式を堅持すべきと考えるが、今後の学校給食センターのあり方は。

答 学校給食センターは築45年が経過していることに加え、旧耐震基準の建物であることから再整備は喫緊の課題である。これまで通りセンター方式を堅持するため、竜王町コンパクトシティ構想「交流・文教ゾーン」



地元食材を使った自慢の給食

の一角に新たな学校給食センターの整備を進める。慣・食べ物や食に関わる生涯を通じた「正しい食む食育に繋がるよう努める。事知識・望ましい食習める。





橘 せつ子 議員



問 竜王町学校給食センターの早期整備を

答 令和10年度末の完成を目指し整備を検討している

問 学校給食センターは、施設の老朽化が進み、空調設備や排水設備も不十分である。特に夏は40度以上になる施設環境で、職員健康や衛生面も心配なところである。何より一番に建て替え、施設環境を整える必要があると思うが、町の考えは。

答 空調や給排水設備の老朽化に加え、旧耐震基準の建物で現状のままだと今後も使用することはできないと考える。「交流・文教ゾーン」で令和10年度末の完成を目指し整備を検討中だが、まずは老朽化の著しい小学校等の建て替えが必要のため、順に進めていく。職員の労働環境と施設の衛生面では、毎日の健康チェック、定期的な検便検査、暑さ対策の衣類提供や扇風機の増設で改善を図っている。調



令和10年度の新築を目指す給食センター

理場の清潔・安全等の環境衛生の徹底を行い、食中毒の防止に努める。

問 令和5年度第1回滋賀県土地収用事業認定審議会で、附帯意見が出された。

①附帯意見はどのような内容で、町はどう受け止めたか。

②この1年3か月余り町民には情報提供や説明もなく、意見交換する場もなかったのはなぜか。予算は約83億円となり、今後10年間の財政計画を示すべきでは。

答 ①附帯意見は、第1にまちづくりの根幹をなす事業なので、住民との協働を推進されたい。第2に町財政運営に十分に留意し、進捗管理を図られたい。

町の考えも同様でありしつかり受け止め、



造成工事が進む中心核「交流・文教ゾーン」

問 中心核「交流・文教ゾーン」の整備の進め方は

答 町財政運営に留意し、着実に進める

着実に事業を進めたい。

②議会をはじめ、区長会や経済交産会等で、都度お示ししている。昨年度は事業認定に時間を要し、各種行政事務手続きがあり、情報提供する段階ではなかった。令和5年10月の事業認定を受け、用地取得契約、令和6年3月に農地転用の許可が下り、令和5年12月から道路工事、令和6年3月から造成工事に着手し、竜王小学校の設計もまとまったことから、整備内容について広報で周知した。



問 竜王町消防団退団者の負担 軽減を



みやけ まさと 三宅 政仁 議員

答 報酬の中から負担をお願いしている



普段は洗濯して着用している活動服

問 消防団へ入団すると、町から制服や活動服など団員として必要な物品を無償で貸与される。

任期を終え、消防団を退団する際には貸与された物品の内、指定されている制服や活動服などは、退団者がクリーニングを行い町へ返却している。そこで次の点を伺う。

① クリーニング代金を町から助成し、負担

軽減をするべきでは。② 劣化・破損した活動服もクリーニングする必要があるのであるのか。

答

① 条例に基づき年額報酬や出動報酬等を支給している。報酬の中には、クリーニング代などの必要経費が含まれている。② 使用できない活動服の場合は、そのまま返却してもらってよい。



あの質問は その後、どうなった？

議員の質問に、町がその後どのように対応したかを追跡・検証してみました。

各地域(自治会)のコミュニティの維持・活性化を支援する仕組みづくりは？

(令和元年12月定例会 一般質問より)

問

新たな仕組みづくりとは、現状の区長制度という枠組みを超えた組織であると思うが、その新たな仕組みづくりを考える上で具体的に取組まれてきたことは。

答

地域自治組織のあり方検討プロジェクトを立ち上げ検討している。

その後、
今の状況は

自治会への依頼ごとを棚卸しするとともに、アンケートやヒアリングを実施した。今後は、他の自治会と連携するための中間支援組織の設立に向け進めている。



来年10月国民スポーツ大会開催！

2025滋賀国民スポーツ大会ではドラゴンハット内に仮設の競技場が設置されます。10月3日（金）から5日（日）までの3日間、竜王町ではボルダーとリードの2つの競技種目が行われます。

・ボルダー

短い非常に難易度の高いルートを、ロープなしで登ります。登る高さは低いですが、限られた時間内でいかに多くの課題をクリアできるかが重要です。



・リード

長いルートをどれだけ高く登れるかを競います。選手は安全ロープを使用しながら登りますが、時間内にどこまで到達できるかが勝負のポイントです。



スポーツクライミングの 魅力と楽しさ

滋賀県山岳連盟
会長 澤山恵さん

「ガンバ！！」「ウワオーッ」。スポーツクライミング競技会では、ほかのスポーツにはない声援が聞かれます。この競技では選手は他の選手の登りを見られず、自身の力量でルートや課題を見極めて攻略します。観客は一切手順やヒントとなる掛け声を発することができず、見ている方は、ハラハラドキドキの連続です。

ロープを付け、制限時間内で到達高度を競うリードは、落ちればその時点で終了です。一方、ボルダーは制限時間内に何度でもトライできます。トライ回数が少ないほうが高得点となり、体力のみならずルートを読む力など知的な能力も必要です。

スポーツクライミングは体と頭を使い、より困難な課題を目指すスポーツです。あなたも挑戦してみませんか。身近にドラゴンボルダリングジムがありますよ。

竜王町のスポーツへ！

総合運動公園内、妹背の里、両小学校、こども園にボルダリングウォールが設置されています。



こども園のボルダリングウォール

子どもたちの笑顔がいっぱい！

竜王町子ども会連合会 会長 福島 正樹

私たちは、子どもたちが異年齢交流をし、集団行動の中で協調性や創造性を培い、実体験からルールを学び社会性や地域性を身につけ、豊かな心を育てる活動を実施しています。

年間3事業を行っています。一つ目は60年以上続く夏休みの『親子球技大会』です。一生懸命で笑顔が絶えない一日です。

二つ目は青年の城での一泊研修『希望が丘はMyホーム』です。野外活動やキャンプファイヤーを行い、みんなが友だちになれます。

三つ目は『劇団うりんこ』による公演です。実際に舞台を見ることで笑ったり時には泣いたりし、感受性が豊かになります。私たちは

子どもたちが健やかに成長してくれるためのお手伝いができればと思っています。今後ともご理解、ご協力よろしくお願いします。



表紙

地域で支える

放課後クラブ

今回は竜王小学校の「放課後のクラブ活動」取材しました。竜王町では地域住民がボランティアとしてクラブ活動を支える取組が行われています。

おりがみから野球まで、幅広い分野で地域の方々が指導にきています。さまざまな専門知識を持つ住民さんが指導することで、普段は得られない貴重な体験ができます。持続的な取組には、地域全体の協力が不可欠です。また、ボランティアへのサポート体制も重要です。これからも子どもたちのサポートをどうぞよろしくお願いします。



手芸

パソコン

クラブ一覧

料理、グラウンドゴルフ、けん玉、手芸、パソコン、バレーボール、おりがみ、ニュースポーツ、竹工作、ちぎり絵、野球、卓球

編集後記

この度の定例会では、皆様の生活に直結する様々な議題が話し合われました。町の中心核整備事業や地域コミュニティの活性化に関する議論が活発に行われ、今後の竜王町の発展に向けた重要な議論をしています。

また、町民の皆様から寄せられたご意見やご要望についても、しっかりと議会で取り上げ、今後の政策に反映させていく所存です。皆様の声が町づくりの原動力となりますので、これからも積極的なご意見をお寄せください。

暑い日が続きますが、どうぞお体に気をつけてお過ごしください。それでは、また次号でお会いしましょう。

議会広報特別委員会

委員長 内山 英作
副委員長 橘 せつ子
委員 中村 匡希
委員 大橋 裕子
委員 澤田 満夫
委員 磯部 俊男